

Q7

乳幼児期に外傷のため沈降破傷風トキソイドの接種を受けました。DPTワクチンの定期接種はどのようにすればよいでしょうか。

A

このような場合にDPTワクチンを規定通りに接種すると、破傷風に対する免疫が過剰になり局所反応が強くなる場合があります。

沈降破傷風トキソイドの3回接種がすすんでいる場合にはDPTワクチンを20日から56日までの間隔（いわゆる3～8週間間隔：参照p3）をおいて2回、2回接種がすすんでいる場合には2～3回で終了とし、1回だけの接種の場合には3回接種するのがよいとされています。DPTワクチンは百日咳予防の意味においても生後3カ月になったら、できるだけ早く接種してください。

なお、沈降破傷風トキソイドに含まれる抗原量は約2.5～5Lf/0.5mL、DPTに含まれる破傷風抗原量は約2.5Lf/0.5mL、DTトキソイドに含まれる破傷風抗原量は0.5～1.0Lf/0.1mLです。